

報 告 書

台北市華興中學一行47名は、7月1日（日）に富良野市入りし、7月2日（月）に東大演習林見学、富良野緑峰高等学校との交流、富良野地域日台親善協会主催による歓迎夕食会、3日（火）富良野高等学校との交流を実施した。以下、その受入状況に関して報告する。

1. 東大演習林見学



一行は、東大演習林麓郷セミナーハウスへ移動し、鎌田林長より、植生等の概要や注意事項について説明を受けた。

説明終了後、市のマイクロバスに分乗し、東大演習林内の前山保存林へ移動した。左写真は、台湾の学生と一緒に移動する鎌田林長。



マイクロバスから降りた一行は、演習林職員の説明を、通訳を介して聞きながら、演習林内を見学した。



演習林内で記念撮影する一行



2. 富良野緑峰高等学校との交流

歓迎横断幕を持って、華興中學一行を歓迎する富良野緑峰高校の生徒たち（右写真）

富良野緑峰高校では、富良野オムカレーを昼食代わりに試食したが、カレンジャー娘メンバーが中国語によりあいさつと説明を行った（右下写真）。





食事後、会場を移し、交流会を開催。



交流会は、富良野緑峰高校鎌田校長（写真右上）、華興中學梅校長（写真右下）のあいさつから始まり、交流を記念して、記念品の交換を行った（写真下）。



両校学生から英語で学校紹介を実施した（写真右上、右下）。

交流を記念して、両校の学生同士で記念品を交換。
富良野緑峰高等学校からは手づくりのストラップを
プレゼントした。



その後、一行は3班に分かれ、茶道体験、校内見学、
直接コミュニケーションの3つの交流プログラムを
それぞれ順番に行った。



3. 歓迎夕食会

2日夜に新富良野プリンスホテルにおいて歓迎夕食会を開催した。

歓迎夕食会では、郷土芸能の体験機会をつくるため、北海へそ踊り保存会のへそ踊りを披露し、華興中學のみなさんにも喜んでいただいた。



4. 富良野高等学校との交流



7月3日は富良野高等学校との交流だったが、学校祭準備が佳境に入っている時期であったことから、生徒会役員等、交流希望者が対応する形で交流を実施した。写真上は、富良野高校書道部作成による横断幕を持って記念撮影する華興中學と富良野高校関係者。

写真右は記念品を交換する川口富良野高校校長と華興中學梅校長。

富良野高校生徒から英語で学校紹介（写真下）、その後、校内見学を実施した（写真右下）。校内見学では、富良野高校生徒が説明者になって案内を行った。



富良野高校では、学校祭準備を行っている学生とも交流できた。



5. 新聞報道記事

北海道新聞 2018年(平成30年)7月3日(火曜日)

台湾中高生 富良野に笑顔

教育旅行 親善協が初の受け入れ

【富良野】台湾・台北の中高一貫校、私立華興中学の生徒と保護者、教員の計47人が教育旅行で1日から富良野を訪れている。富良野地域日台親善協会(本間勲会長)が初めて受け入れた。2日は市内の東大北海道演習林で森林学習を体験したほか、富良野緑峰高等学校(田村校長)を訪れて生徒との交流を楽しんだ。(古井優伍)

森林学習など体験



東大演習林を巡視する富良野緑峰中学の生徒



富良野緑峰高生(左)と記念品を交換する華興中学の生徒

昨夏、華興中学側から教育旅行で富良野を訪れたいという提案があった。同校では希望する生徒が長期休暇中に教育旅行で北米や欧州を訪れ、現地の文化を学んできた。今回、日本では中学生と高校生に当たる生徒17人が富良野を選んだ。

通常、東大演習林は修学旅行生を受け入れていないが今回、森林について学びたいという学校の要望で特別に認めた。演習林の一部で天然林が広がる「前山保存林」を鎌田直人林長らが案内。倒木が所々にある山林を歩き、鎌田林長は倒木から芽生える木もある。倒れても尚劇がある」などと説明した。

富良野緑峰高では園芸科学科の生徒による「ふらのカレンジャー娘」が「富良野オムカレ」を振る舞った。カレンジャー娘は中国語で「富良野産、遺産の食材に」だわって作っている」と説明。華興中の生徒らは日本語や英語で「おいしい」と笑顔を見せた。

茶室体験や学校案内、英語で互いのことを教え合うゲームなどもした。華興中の陳詩寧さん(15)は「みんな親切でフレンドリー。言葉が通じなくても一生懸命伝えようとしてくれた」と喜んでた。緑峰高3年の末藤聖花さん(17)は「温かい人が多く、ぜひ台湾に行ってみたいと思いました」と語った。

2日後には富良野地域日台親善協会が新富良野プリンスホテルで歓迎会を開催した。富良野地方には4日間で滞在し、上富良野町の後藤紳男美術館や中富良野町のファーム富田などを見学する予定。3日には富良野高の生徒と交流する。

6. ふりかえり

富良野地域日台親善協会では、富良野市と協力して、富良野緑峰高等学校、富良野高等学校で交流に参加した生徒を対象にアンケートを実施した。積極的にコミュニケーションできた生徒が思いのほか多かったこと、交流終了後も SNS 等でコミュニケーションを継続している生徒もいること、次回以降の交流に意欲を持つ生徒もいることから、こうした国際交流機会が増えることは、市内学生の国際感覚を養う観点からも有効であると考えられる。